

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス リッケティル		
○保護者評価実施期間	2026/3/1		2026/3/20
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026/3/1		2026/3/20
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026/3/31		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われて、事業所の職員から共感的に支援を行なっている。	保護者からの評価が及び職員の自己評価が高かった項目定期的な面談に加えて、保護者や関係機関から相談や助言の申し出があった際は、積極的に会議などを開催し他機関と連携して、一緒に支援を考える機会を設けている。	児童への直接的な支援に加えて、保護者や関係機関への間接支援も重要視している。法人内で相談支援や保育所等訪問支援を提供しているので必要な場合は他のサービスと合わせて課題や不安に対応している。
2	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応している。		
3	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援を行なっている。 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われている。	保護者からの評価が及び職員の自己評価が高かった項目 子どものことを理解するための信頼関係作り→アセスメントを徹底する。細かくとったアセスメントを活用した実践できる支援計画をガイドラインに沿って立てることを意識している。	より専門性を高めるために今いる職員の質の向上に加えて、新たな職員の専門性も追加して常にアップデートしていく。具体的には、行政の法定研修(児童発達支援管理責任者研修基礎実践、強度行動障害支者研修基礎実践、その他)への派遣や民間の研修システムの活用や国家資格取得の補助。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されている。非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われている。	各マニュアルを作成しているが、保護者に説明する機会を設けていないため、保護者からの理解を得ていない状況にある。	各マニュアルを定期的に見直し、保護者への周知方法も考えていく。 また、避難訓練に関して避難訓練日に来所していない児童についても情報を届けたり、保護者にも協力してもらう形を検討する。
2	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われている。	事業所での家族支援プログラムは実施できていないことに加えて、研修会の案内等も情報が少なく提供が十分にできていない。	保護者に有益な情報を提供していけるよう外部からの情報収集に努めるほか、保護者が興味のある内容なども聞き取りしていく必要があると考える。
3	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援 きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援	令和6年度は家族会を開催することができなかった。	令和7年度に家族会を開催できるよう、計画を立てて調整を進めていく。

公表場所における自己評価結果

事業所名	公表日 2026/3/31				
公表場所	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		指定基準に基づき支援スペースを確保している。	引き続き利用児童の状況に合わせた支援スペースの確保に努める。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		指定基準に基づき職員の人員配置を行なっている。	職員の基準人員に加えて1名の指導員を配置している。今後もこどもの状態に応じた職員配置を行う。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく快適化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	靴、荷物の置き場所、おもちゃや備品の片付け場所などわかりやすく視覚化する等の工夫を行なっている。	状況に応じて日々安全確認を行い、視覚化等の工夫を行なっていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		日々の清掃に加え、大掃除を定期的に行う。クローラーやフーターサーブなどは専門の業者に入ってもらいメンテナンスを行なっている。	引き続き清潔な環境を維持していく。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		クールダウンや、個別の面談が必要な場合に活用できる部屋を設けている。	引き続き個別対応のできる部屋を確保する。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		年度初めに目標設定を行い、一年を通して評価、分析、改善のサイクルを実施している。	引き続き実施しているサイクルを実行していく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者からの評価表を職員で読み合わせ、把握し業務改善に繋げている。	引き続き保護者の意向を確認し、改善していく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		定期的に管理者対職員の面談の機会を設け、意見を聞きながら改善に努めている。	引き続き職員の面談を設け、個別での振り返りを継続していく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5		第三者による評価を行っていない。	今後、第三者による評価を検討する。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5		法人内の研修に加えて外部の研修への参加も積極的に行なっている。	引き続き、研修の機会を設ける他、常に制度や支援方法のアップデートを行う。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		通知に沿って支援プログラムの作成、公表を行った。	定期的に支援プログラムと支援の実態が揃っているかの確認を行う。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		日々のこどもの関わりの中でのアセスメント、定期的な保護者との面談からの聞き取りを踏まえて計画を作成している。	引き続き制度に基づく支援計画の作成に取り組む。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		毎日のMTGの中で共通認識を図るとともに、支援会議で計画作成のための聞き取りや計画の共有を行っている。	引き続き毎日のMTGを大切に職員間での共有を行う。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援会議で計画作成のための聞き取りや計画の共有を行っている。また、支援記録のフォームにて毎日計画を見ることができている。	引き続き、計画に沿った支援を行っていく。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		サービス等利用計画に照らし合わせた評価の他に、当事業所の個別支援計画やアセスメントシートから評価を行うこともある。	引き続き細やかなアセスメントを行っていく。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		個別支援支援計画において、それぞれの項目に該当する支援内容を盛り込んでいる。	移行支援や、地域連携についてさらに工夫できることがないか、協議し内容を深めていく。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		平日の活動も振り返りを行いながら改善点があれば、適時こどもにあった活動を計画している。また、長期休みなどの活動を全職員で話し合いながら通所児童にあった活動を考えている。	引き続き全職員で活動の立案を行っていく。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		長期休みなどの活動を全職員で話し合いながら通所児童にあった活動を考えている。	引き続き全職員で活動が固定化しないように話し合いを行っていく。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		児童の特性やその日の状態に合わせてながら、個別活動と集団活動の支援を組み合わせ支援している。	今後ニーズに応じて個別の対応の質向上に向けて、調整を行っていく。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎日支援前にMTGを行い、支援児童や役割分担を行い、支援中も連携を取り合いながら確認を行なっている。	引き続き毎日のMTGで確認していく。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		毎日のMTGにて、前日の支援の振り返りや確認を行い、当日の支援につなげている。	引き続き毎日のMTGで確認していく。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		ICTを活用し、統一したフォーマットで記録の細やかさと効率化も行ないながら漏れのないように2重チェックをするなど日々努めている。	今後、記録の質の向上に努める。
	23 定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的なモニタリングに加えて、保護者や相談員、学校からの希望に沿って会議やモニタリングを行なっている。	引き続き、定期的なモニタリングを基に支援計画の更新を行っていく。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		4つの基本活動をバランスよく取り組めるように、活動MTGで話し合いを行なっている他、新しい活動の起案も定期的に行なっている。	地域交流活動の回数が少ないため、次年度少しでも多く取り組めるように努力したい。
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		職員の手が離れにくい環境にこどもをコントロールするのではなく、選択肢を与えて、自己決定に委ねる環境設定を行なっている。	今後も自己決定をする環境や場面を意識的に作り、その上で選択したことに対するサポートを丁寧に行なっていく。

公表施設における自己評価結果

事業所名		公表日 2026/3/31				
放課後等デイサービス リックティル						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		基本的に児童発達管理責任者、必要に応じて対象児童と信頼関係のある職員が会議に参加し、会議内容を共有している。	引き続き同様な対応を行なっていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		新年度に毎年各機関に挨拶を行い、日常的に福祉課、教育委員会、こども課(行政)や各校と連携体制ができていく。	引き続き、現行の体制を継続していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		必要に応じて会議や顔合わせを行い、送迎調整やトラブル時などその都度調整を行なっている。	引き続き密な連絡調整を行う。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		該当児童がない。	今後、該当児童が通所する際は情報共有を行う。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		該当児童がない。	今後、該当児童が通所する際は情報共有を行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイスや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	地域に児童発達支援センターがないため、相談員や大学教授などの有識者からスーパーバイスを受けることがある。	地域に児童発達支援センターの設置を市に依頼していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	3	他事業所の児童との交流を定期的に行なっている。	引き続き事業所以外の地域のこどもと関わる機会を定期的設ける。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		児童発達管理責任者が代表して参加している。	引き続き参加していく。現時点で回数が少ないので市に対して協議会の拡充を依頼していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎の申し送りや定期的な面談でこどもの情報を確認したりリリックの様子を伝えている。	引き続き保護者と共通理解を持てる機会を確保していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	保護者むけの研修等の周知を行うことがある。	保護者に有益な情報がないか日々情報収集に努め、共有していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		利用契約時や加算等で、負担額に変更がある場合に説明している。	引き続き、丁寧に説明していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		支援計画を作成する際、面談や本人からの聞き取り等アセスメントしながら日々の支援でもこどもの意向も確認しながら支援を行なっている。	引き続きこどもや保護者の意向を確認しながらサービスの提供にあたる。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		支援計画の内容を確認してもらい、同意を得ている。内容に変更の希望がある場合は修正している。	引き続き、丁寧に説明し計画の同意を得ていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者からの希望や、事業所が必要を感じた場合に定期面談とは別で機会を設けて助言や話し合いを行なっている。	引き続き、丁寧な支援を行なっていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5	今年度は開催できていない。	来年度開催できるように計画する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情に対する体制の整備をおこなっている。	常に苦情解決の窓口の体制を確認する。
	42	定期的な通信等を行うことや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		HPやSNSを通じて活動やイベントの様子を発信している。	周知回数を増やすほか、内容も改善を進めていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		ネットやPCにセキュリティをかけている他、紙媒体の資料についてはキャビネットに保管している。	引き続き、十分に注意する。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		こどもや保護者に対して、理解し職員で共有して配慮して情報伝達を行なっている。	引き続き、十分に行き届いた配慮を行う。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		民生員や地域の議員や住民が事業所見学を行ったり、日頃から開いた運営を行なっている。	今後はイベントへの招待など定期的に地域住民が参加できる機会を設けていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各マニュアルを策定して、職員に周知している。	今後保護者に周知をする場面を設けていくように努める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1	管理者の集まりでBCPを策定し、定期的に確認、見直しを行なっている。	訓練の中に保護者との連絡も今後取り入れていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		緊急時対応記録表を作成し、定期的に保護者にこどもの状況報告も協力をお願いしている。	引き続き、定期的に確認を行う。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		与薬を含め保護者からの申し出（医師の指示書通り）の対応を行なっている。	引き続き、アレルギー対応には十分な注意を払っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1	安全マニュアルを作成し、定期的に事業所の安全確認を行なっている。	安全計画を毎年見直し、環境や利用児童にあつたものにアップデートしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全マニュアルに基づき、保護者との連絡体制について共通認識をもって対応している。	安全マニュアルを周知する機会を定期的設けていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットはすべて共有の場においての検討を行っている。また、定期的なまとめとしてヒヤリハットを共有し対策の検討を継続している。	引き続き、ヒヤリハットを共有し、対応策の検討を継続していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		社内の虐待防止研修の他、外部の虐待防止研修に参加する等の機会を設けている。	引き続き、研修を進める他、お互いに日々の虐待防止に向け全員で連携して支援にあたる。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		身体拘束が必要な該当児童がない。	今後該当児童を受け入れる場合に、必要な対応を適切に行う。